

お客様のインターネットに表出する外部資産（アタックサーフェス）への自動での脆弱性診断とAIによる評価スコアを提供するアタックサーフェスマネジメント（ASM）サービス“BreachRisk™”をご紹介します

✓ アタックサーフェスマネジメント（ASM）とは

被害につながる様々な攻撃対象の管理をいい、ASM製品やツールの導入は、経済産業省からも推奨されています

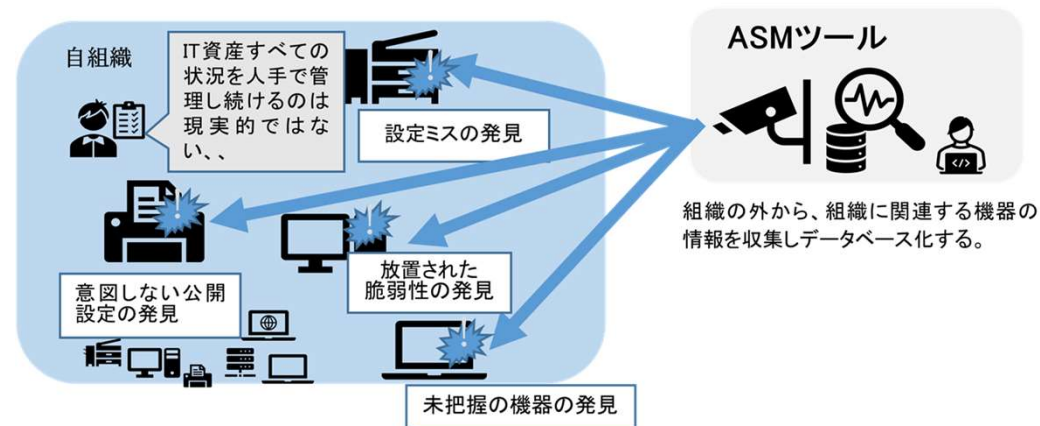
✓ ASM普及の背景

警察庁の「ぜい弱性探索行為等の観測状況（2023（令和5）年度）」より、攻撃目的と思われるスキャン行為は、1IPアドレス当たり9,145件/日で連続で増加（前年比で18.6%増加）

- 海外を送信元とするアクセスが高水準で推移（上記全パケットのほとんど（9091件/9145件中）が海外からの送信）
- Iot機器のポート（1024番以上）へのアクセスが多数

一般的なASMの特徴とイメージ

- インターネットにつながっている世界中の機器の公開情報を継続的に収集・蓄積
- 特定の条件に合致する機器などを検索可能（無料でも可能）

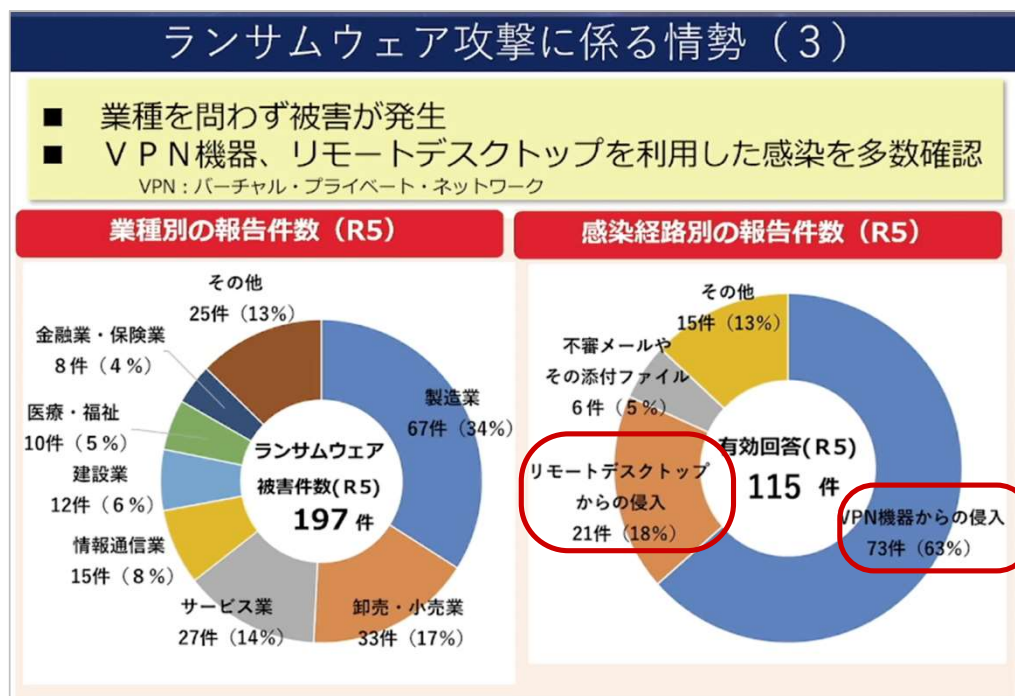


<https://www.meti.go.jp/press/2023/05/20230529001/20230529001.html>

ASMが注目される理由

お気軽にお問い合わせください
asm@benefacis.com

ランサムウェア侵入経路は、VPNとリモートデスクトップ



Security Management Conference 2024（2024年8月開催）
警察庁 長官官房審議官 阿部氏資料“令和5年におけるサイバー空間をめぐる脅威の情勢等について”より

✓ ASMが注目される理由は・・・

- 警察庁の報告（左記）のとおり、企業が把握できていないアタックサーフェス（VPNサーバ等）がランサムウェアの侵入経路として狙われています
- これまでの“脆弱性診断”をウェブサーバ以外に対象を広げ、継続的にかつ自動で診断する必要性が高まっています

✓ ASM導入企業や取扱いベンダーが急増！

- 金融機関等大企業を中心にASMは普及してきています
- 今後の普及を見越して、2024年から多くのベンダーが取扱いを始めています
- ・ セミナー・ウェビナー講演タイトル例
“ランサムウェア対策の1丁目一番地！ASM（Attack Surface Management）を成功させるエッセンスとは？”
“Attack Surface Managementはパスワードなのか？ 企業の期待とソリューションご紹介”

- | 1. 外部からの脅威診断 BreachRisk™ サービスの特長
- | 2. なぜ BreachRisk™ は開発されたのか？
- | 3. BreachRisk™ 診断サービスご導入事例（建設業）
- | クイックスキャンサービス powered by BreachRisk™

BreachRisk™の製品詳細や価格、デモはお問い合わせください
asm@benefacis.com

1. 外部からの脅威診断 BreachRisk™ サービスの特長

お気軽にお問い合わせください
asm@benefacis.com

1

- ✓ 米国海軍にて培った様々な知見を元に、AIを活用した自動化された脆弱性評価を含む攻撃サーフェスマネジメントサービス
- ✓ BreachBits 社が提供する Cloud サービスから、お客様自身による脆弱性評価を、週次もしくは月次にて、定期的実施することができます
- ✓ 保険の引き受け会社は、定量的にサイバーリスクを可視化できる本サービスによって、どのような業態、規模、事業ポートフォリオ等に関係なく、保険適用が容易になります



AIによる自動化

ミタリーグレードのAIによる自動化



攻撃のエミュレーション

弊社のテクノロジーは、サイバー攻撃のベテランが、現場で経験した既知の攻撃者の手法を利用



継続性

24時間体制で機能し、サイバーセキュリティを最新の状態に保ちます



スコアリングとレポート

スコアはスケラブルで現実的でわかりやすいメトリックを提供し、生産的な意思決定とアクションを可能にします



2. なぜ BreachRisk™ サービスが開発されたのか？

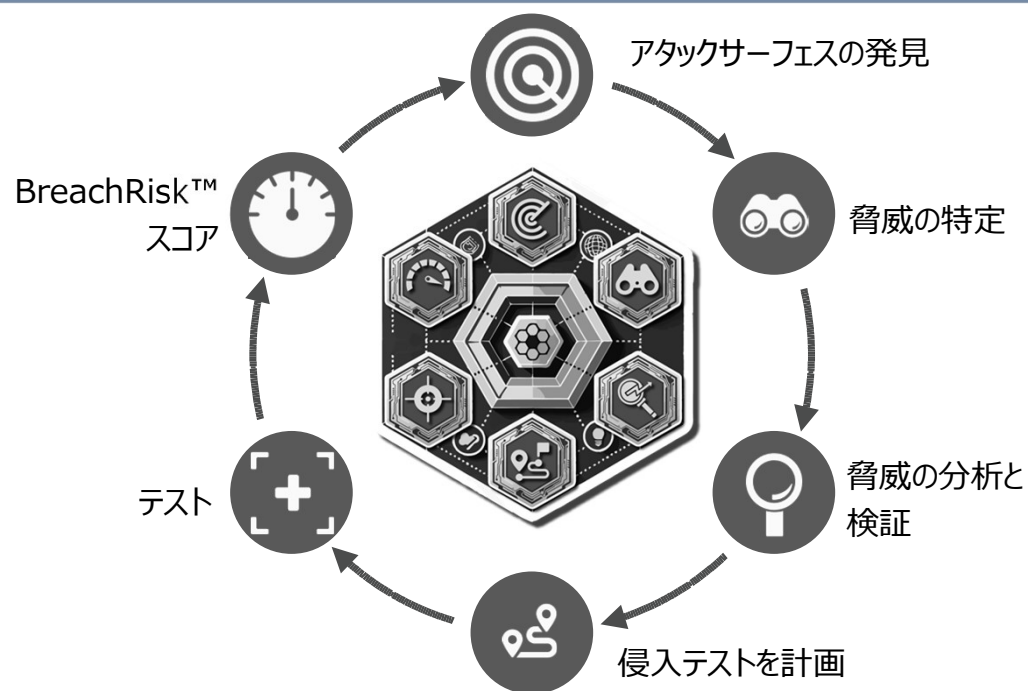
お気軽にお問い合わせください
asm@benefacis.com

2

- ✓ 国家間のサイバー戦争の最前線にて、米軍諜報機関の二人の海軍士官がひらめきを共有した。

**「犯罪者と同じようにサイバー攻撃を計画して実行する AI ボットを作成したらどうなるか？
そうすれば、直ぐに脆弱な箇所を見つけて、最終的には犯罪者に先んじることができる！」**

- ✓ BreachRisk™ サービスは、AIを活用し犯罪者と同じ、攻撃箇所の発見方法、攻撃手法等を使い顧客の環境を調査します。



✓ AIを活用した脆弱性評価サービスとは？

■ 攻撃者の思考パターン例

- このホストはターゲット企業のものか？
- 使用しているアプリケーションを攻撃した場合に与えるインパクトは？
- 探索したアプリケーションが関連する脆弱性、設定ミスとは？
- ターゲット企業の他のドメインやホストを探せるか？

3. BreachRisk™ 診断サービスご導入事例（建設業）

お気軽にお問い合わせください
asm@benefacis.com

3

- ✓ AIとセキュリティエキスパートによる脆弱性診断ポータルを採用
- ✓ 導入サービス：BreachBits 社 脆弱性評価サービス【ASMサービス】
- ✓ 建設業、ホテル業（子会社）
- ✓ 導入時期：2023年6月

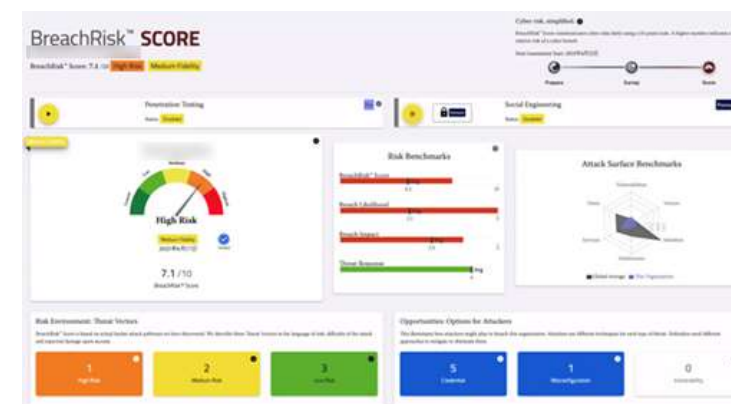


✓ 背景・要件

- 中期経営計画で、グループ会社の情報セキュリティ対策強化を掲げる
- 約一ヶ月の以下のPOC（事前実証）を行った
 - ・ スコアリングとレポート
 - ・ 脆弱性の発見、修復と検証
 - ・ 外部からの攻撃をチェック 等

✓ 選定理由

- 不正アクセスにつながる攻撃ベクトルが複数確認され、継続的な脆弱性評価が必要であると認識した
- 年間契約（約300万円／年）により、コストが安くすんだ
※一般的に、脆弱性診断は、100万～150万／1回である



BreachRisk™の製品詳細や価格、デモはお問い合わせください
asm@benefacis.com

クイックスキャンサービス powered by BreachRisk™-

お気軽にお問い合わせください
asm@benefacis.com

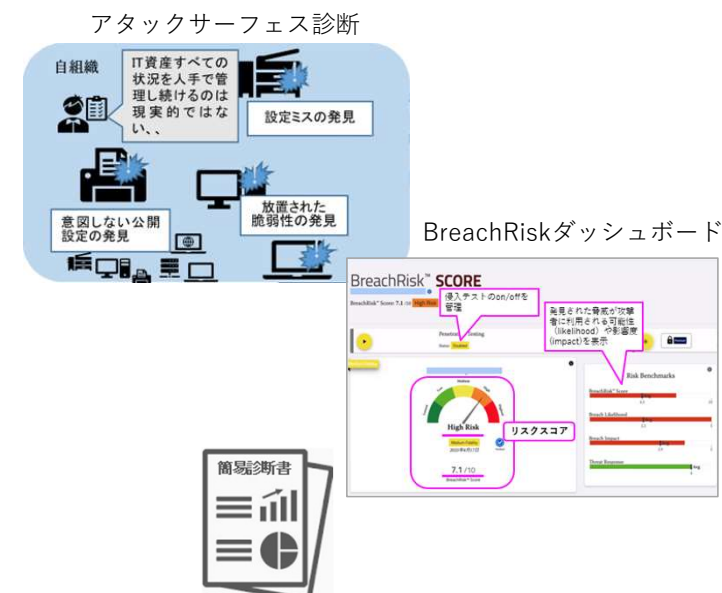
弊社は、明治安田生命保険相互会社様と同社の協業パートナーであるアイソット(www.i-sot.com)と共に、明治安田主催サイバーセキュリティセミナーにて、クイックスキャンサービス powered by BreachRisk™ を紹介しています

アタックサーフェス（貴社のインターネットからアクセス可能なIT資産）の脆弱性の発見や設定ミス、意図しない公開設定を診断します

ご提供いただく（診断ご希望の）貴社のドメイン、eメールアドレス、IPアドレスを元に、BreachRisk™アタックサーフェス診断を行います

診断によって、全体のリスクスコア（BreachRisk™ Score）や詳細の技術情報（BreachRisk™ Technical）等がダッシュボード（web）に提供されます

上記結果概要を、簡易診断書として提供します



明治安田沖縄支社様 セミナーの様様

お気軽にお問い合わせください
asm@benefacis.com

明治安田 沖縄支社
presents

サイバーセキュリティ対策セミナー リスクスコア 編

現在、サイバー脅威は日々増加の一途をたどっています。
最近の傾向として、大企業のサプライチェーンの中で
セキュリティ対策が手薄な企業が、標的となっているケース
が増えています。しかし、コストや手間がかかるので、
対策は後回しとする場合が多いのが現状です。
(IPA 中小企業情報セキュリティ調査より)

本セミナーでは、サイバーセキュリティ対策の最初のステップとして、
AIによる脆弱性診断を自動で行う事でリスクスコアを表示できる
クイックスキャンサービス(無料)のご紹介をとおして、サイバーセキュリティの現状と対策を
ご紹介します。

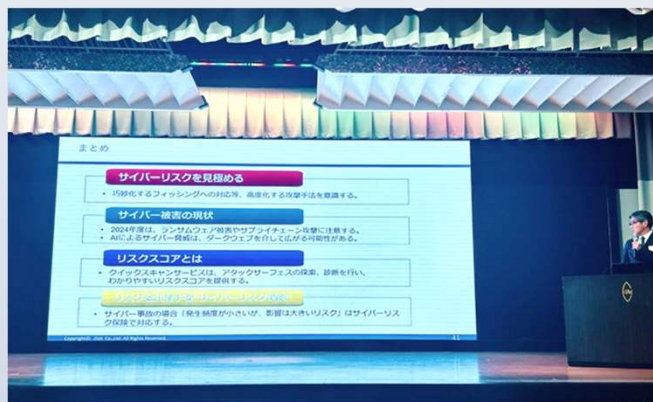
また、文書管理システムを展開する(株)シナジー様より、顧客情報の管理、漏えい対策の
実践を通して、知っておかなければならないセキュリティ対策のポイントをお話いただきます。

開催日 2024年 6月14日(金) 場所 ○○○○○○
時間 16:00~17:00(受付15:30) △△△△△

参加無料

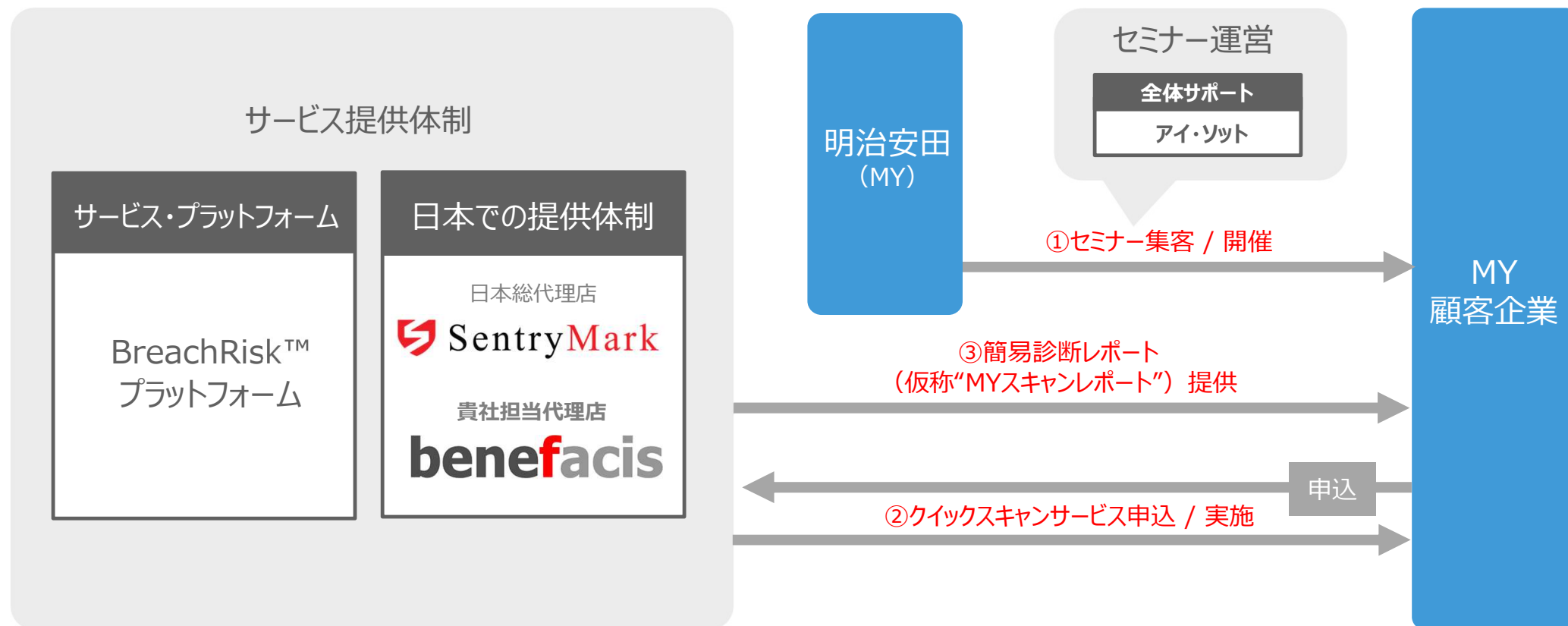
「サイバーセキュリティ対策を見える化するリスクスコア」
スピーカー アイソネット 株式会社 代表取締役社長・CISSP(情報セキュリティプロフェッショナル認定資格) 川満 正博 氏
※株式会社 エグゼクティブ保護サービス エグゼクティブ アドバイザー(損害保険業人)
【職務経歴】大学卒業後、中央生命(現 中央生命)に勤務し入社。企業経営者、伊藤忠テクノサービス(現 伊藤忠テクノソリューションズ)に
入社し、情報セキュリティ専門部署を立ち上げ部長に就任。その後、複数の企業でサイバーセキュリティ専門部署の営業・マーケティング部長として
就任した。現在は、アイソネット株式会社 代表取締役 及び アイソネットプロパティ 取締役兼
【保有資格】CISSP(情報システム・セキュリティプロフェッショナル認定資格)、後援保護基金人

「目にみえないセキュリティ対策」
スピーカー 株式会社シナジー PMO経営戦略室 室長 山城 英正 氏
【職務経歴】大学卒業後、株式会社オーシーに入社。公共システム事業部長、営業部長を歴任。その後、沖縄21世紀ビジョンの中核となる
沖縄情報流通センターの運営会社沖縄データセンターの営業部長を経て現在の株式会社シナジーに在籍。
CISSP(情報システム・セキュリティプロフェッショナル認定資格)の取得後、初任給100万円超。初任給100万円超。初任給100万円超。
情報管理責任者として品質管理(ISO9001)情報セキュリティ(ISO27001)クラウドセキュリティ(ISO27017)、プライバシーマークを維持管理中。



クイックスキャンサービス展開図

お気軽にお問い合わせください
asm@benefacis.com



BreachBits社のご紹介 BreachRiskの開発元且つサービスベンダー



John Lundgren

Co-Founder: CEO & CTO



J. Foster Davis, CISO

Co-Founder: COO & CRO



BreachBitsは、2018年に設立され、米国に本社を置くセキュリティ企業で、サイバーリスクを特定するために設計されたクラウドベースのデジタルサイバーセキュリティサービスを開発・提供しています。BreachRisk™のお客様は、企業のIT資産のテストに加えて、子会社やビジネスパートナーの第三者エコシステムのリスクスコアを確認できます。すべてのBreachRisk™サービスは、独自のAiPT™予測リスクエンジンを搭載しています。攻撃面検出 (ASD)、攻撃面監視 (ASM)、サービスとしてのペネトレーションテスト (PTaaS)、クラウド、ダークウェブ、スピアフィッシングを、常にオンのシンプルで自動的な方法で組み合わせます。企業の攻撃ライフサイクルをエミュレートして、標準化されたスケーラブルな方法でサイバーリスクを測定することが可能になりました。BreachBitsのお客様は、受動的に観察するだけでなく、サイバー攻撃者をかわすために脅威のターゲットを積極的に調査できるようになりました。

URL : <https://www.breachbits.com/>

SentryMark社のご紹介



CEO ALBERT VASQUEZ



カリフォルニア州シリコンバレーに本社を置き、東京にオフィスを構えるセントリーマークは、数十年にわたるグローバルなサイバーセキュリティ分野の広範な経験と高度なAIベースのテクノロジーを組み合わせています。セントリーマークは、クラス最高の人材、テクノロジー、パートナーシップと協力して、カスタマイズされた高度なソリューションを提供し、クライアントが時代遅れでサイロ化されたサイバー防御を乗り越えて、現代社会向けに構築された高度なソリューションを構築できるよう支援します。

URL : <https://www.sentrymark.com/>

お問い合わせ

BreachRisk™の製品詳細や価格、デモはお問い合わせください

株式会社ベネファキス
asm@benefacis.com